JAPIC NEWS

11
2012 | No.343

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

Contents

■巻頭言
「グローバリゼーションの必要性」
内閣官房医療イノベーション推進室　企画官　岡本 光弘 …… 2

■インフォメーション
11月発刊します!!
新薬承認審査報告書集「日本の新薬」47～52巻 …… 4
12月初旬発刊予定!
「添付文書記載病名集 -医薬品の効能効果と対応標準病名-」Ver.3.1 …… 4

■トピックス
薬系大学、医学系大学4年生向けに　JAPIC「医療用・一般用医薬品集2013」検索用DVDを無償提供! …… 5
JAPICサービスの紹介
附属図書館 …… 6

■コラム
しごと百景「脳に良い?」　学校法人北里研究所　北里大学病院　薬剤部　椎 崇 …… 8
最近の話題「ピンピン・コロリを達成するにも、先ずは。」
日本OTC医薬品協会　常勤顧問　西沢 元仁 …… 10
会員の声「母校と地域の薬剤師に貢献できる教員に…」
北海道薬科大学社会薬学系医薬情報解析学分野　講師　梅田 純代 …… 12
くすりの散歩道 No.62「モナ・リザ」の微笑?
(一財)日本医薬情報センター　添付文書情報担当　本間 とも美 …… 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より－(抜粋) …… 14

■図書館だよりNo.269　■情報提供一覧 …… 15

巻頭言

グローバリゼーションの必要性

内閣官房医療イノベーション推進室　企画官
岡本 光弘（Okamoto Mitsuhiro）

今年の夏は、ロンドン・オリンピックが開催され、寝不足の方も多かったのではないでしょうか？オリンピックを目指して練習を重ねてきた選手たちが、最高の舞台で最高の技を競い合う姿は、筋書きのないドラマへと発展し、人々に感動を与えます。例年以上の日本選手団の活躍に鼓舞激励された方も多かったことでしょう。よくよく考えてみると、日本人選手の活躍がみられた競技は、その中心的な選手が外国のチームに所属して活動していたり、1年のうちの大部分を海外遠征に費やしたりするものが多かったように思えます。まったく言葉の通じない外国に単身で乗り込むことは日本人選手にとって大変な勇気と大きな苦労を要するものですが、それによって技術の向上はもちろんのこと、異国の文化に触れることや国民性を理解することが今回の国際的な試合での結果につながっているのではないでしょうか。

日本企業において、対応が急務であるとされる課題のひとつにグローバリゼーションがあります。国境を越えた経済活動が加速する中において、グローバルな視点でビジネスを考える必要があります。また、近年は日本や北米、欧州以外の国、例えば中国やインドなどにおける戦略も併せて検討しなければなりません。すなわち、日本企業におけるグローバリゼーションとは、海外売上高比率を単に上昇させること（＝国際化）ではなく、経済的国境を乗り越えての経営の国際戦略といった意味合いの方が正しい考え方でしょう。

医薬品の創薬研究においては、日本では2004年頃から外資系製薬企業の研究所の撤退が相次ぎました。一方、中国においては、イーライ・リリー、ロシュ、グラクソ・スミスクライン、ノバルティス、バイエル・シェーリング、アストラ・ゼネカ、メルクなどの大手製薬企業が次々と上海、北京に研究所を設置し、グローバル創薬研究拠点としての役割を担っています。韓国では、新成長産業としてバイオシミラーに対する投資を大幅に拡大し、2013年頃から始まる大型バイオ医薬品の特許切れの市場をターゲットにグローバル進出を図っています。すでに韓国国内では、第1号となるバイオシミラー品目が承認されています。台湾では、バイオ医療産業を根付かせ、レベルの高い人材を育成し、雇用機会を創出することを目的にバイオテクノロジー・テイクオフ・アクションプランを2009年に策定しています。また、最高学術研究機関であるアカデミア・シニカ（中央研究院）では、ずっと以前から海外研究者の招聘や海外研究者の帰国を推進しており、国際化に積極的です。このようなアジア諸国の一部の状況を鑑みても、現在は米国、英国につぐ世界第三位の新薬創出国である日本もうかうかしていると、国際競争から脱落してしまう恐れがあります。

私自身の経験がある医薬品の開発については、近年、急激なグローバリゼーションが進んでいます。たとえば、医薬品の開発計画を立案する初期段階においては、10数年前では、各国の担当者が各々の国・地域にあった計画を立案し、極端にいえば、それをクリップで留めたようなものがオリジナルの開発計画でした。ところが、近年は、計画の初期立案時からプロジェクトマネジャーを中

心に各地域の開発担当者間で同じ情報を共有の上、十分なコミュニケーションを取りながら、グローバルで一つの開発計画を作りあげていくことが主流です。さらに、日欧米以外の地域の担当者（たとえばアジア）も加わることも多くなりました。開発計画の立案では、効率的かつスピード感のある開発を進めるために、国際共同試験や各国のデータの相互利用を考慮した上で、ターゲット・プロダクト・プロファイルを作成することが重要な業務となります。各国の担当者は、そのグローバル計画の中で各々の役割を組み込んでいくわけですが、日本の担当者としてはグローバル計画の中で日本としてのできることを明確にし、どのように貢献するのかをアピールすることが重要です。

私は、昨年1月より民間企業から内閣官房医療イノベーション推進室に出向し、産学官が一体となって働く貴重な機会を得ています。医療イノベーション推進室は、日本の医療のあり方を根本から見直し、医薬品や医療機器などの医療関連分野を真の成長産業として育成する目的で設置されました。もちろん、国民に世界最高水準の医療を提供することがミッションであることはいうまでもありません。その目的を達成するために医療イノベーション推進室が省庁間の縦割りを解消し、医療分野の司令塔として機能することが期待されています。

医療イノベーション推進室では、本年6月に「医療イノベーション5か年戦略」を策定しました。主な重要施策は、創薬支援ネットワークの構築、臨床研究・治験環境等の整備、医療機器開発における医工連携や基盤づくり、再生医療の実用化促進、個別化医療の先進的な取り組みなどで、これらは本年7月に閣議決定された日本再生戦略にも組み込まれ、現在、実行段階に移りつつあります。

少し前の日本企業では、国内内需を取り込むことを主眼におき、グローバル展開を視野に入れてなかった業種も多かったかもしれません。これは大きな国内需要があったのも原因のひとつですが、今後、少子高齢化が進み、国内需要が伸び悩む中、企業が成長するには正面からグローバル化へチャレンジする必要があります。そのために、企業では、経営の国際戦略、さらに国際的な買収・合併への対応として、世界的に通用する優秀な人材を採用することや優秀な人材を育てることが必須となっています。一般的にグローバル人材を育てるには、少なくとも10年以上の長期間を要するといわれますが、この人材の確保や育成ができるか否かで、その企業の将来が決まるといっても過言ではないのです。これは医療イノベーションにも全く同じことが言えるのではないでしょうか？日本の医療の強みを活かし、常に海外展開を念頭におきながら国策を考えることが非常に重要であると思います。

国は「日本に生まれて本当に良かった、日本に住んでいて本当によかった」と思えるような医療体制作りとともに、成長産業として医療関連産業を育てて行かねばなりません。そのためには、広い視野を持った国際性豊かな人材を育て、グローバル競争を意識して国策を進める必要があります。また、場合によっては、優れた才能を有するリーダーを外部から雇用することも必要かもしれません。前例のないことにチャレンジすることや今までの慣習・ルールを変えることは難しいとは思いますが、変えることを恐れていては、戦うピッチにすら立てない可能性もあります。

最後に再びオリンピックの話に戻します。私はここ数年、水球（Water Polo）という競技に注目しており、高校生や大学生の試合、さらに日本代表の試合も機会があれば観戦しています。この水球という競技は、水上はもちろん水面下でも激しい攻防が行われ、そのスピード感や鍛え上げられた肉体のぶつかりあいなどはまさに水中の格闘技です。日本ではマイナーな競技ですが、オリンピックの団体競技としては一番初めに採用されたほど歴史があり、欧州では人気のあるスポーツです。次回リオデジャネイロ大会では、日本男子に32年ぶりの出場を勝ち取ってもらい、体格的に劣る日本男子がスピード、持久力、チームマネジメントなどを武器にどのように水球のメジャー国に戦いを挑んでいく様子を是非観てみたいと思います。そのためには、多くの選手や指導者が海外へ積極的にでていき経験を積むこと、すなわちグローバリゼーションが最重要であることは間違いありません。スポーツも企業も国も同じではないでしょうか。

Information

インフォメーション

11月発刊します！！

◇新薬承認審査報告書集「日本の新薬」47～52巻

本書は独立行政法人医薬品医療機器総合機構で行われた新医薬品の承認審査の報告書（以下審査報告書）をまとめて編集したものです。平成23年1月～12月までに承認・公表された74品目を承認月順に収載し、47～52巻の6分冊にまとめました。

各巻は成分名の五十音順に配列され、訂正のある報告書については、1～46巻同様本文中に修正前と修正後がわかるように編集しています。昨年11月に発刊いたしました「日本の新薬」41～46巻（平成22年1月～12月承認分を承認月順に収載）に引き続いての刊行となり、全52巻では716品目を収載いたしました。なお、1～20巻（平成10年～平成17年承認分）は、薬効別で収載しています。

新薬承認申請の際の参考資料として、また大学の医薬品情報およびレギュラトリーサイエンス教育用の教材・資料としてご利用いただけます。

お問合せ先：事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）

12月初旬発刊予定！

◇「添付文書記載病名集 -医薬品の効能効果と対応標準病名-」Ver.3.1

本書は医療用医薬品添付文書の効能効果と対応する標準病名を一覧としてまとめている点が特徴ですが、医療用添付文書の効能効果と一致する標準病名の他、同じICD-10コード（国際疾病分類第10版）を持つ標準病名およびJAPIC病名辞書をもとに標準病名を抽出し、添付文書の効能効果との関連付けを臨床医・臨床薬剤師等の専門家に評価していただき、その結果を三段階評価で表示しております。またICD10コードの上2桁が一致している病名、病名の一部が一致する病名を候補病名として抽出し、同様に複数の臨床医・臨床薬剤師等の専門家によって評価を行っております。厚生労働省保健局医療課長通知（保医発第0921001号）による「医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取扱いについて」の内容についても前版同様掲載いたします。

◆価格：定価7,770円（税込）・B5判

お問合せ先：事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276）

薬系大学、医学系大学4年生向けに JAPIC「医療用・一般用医薬品集2013」検索用DVDを無償提供！

JAPIC会員サービス及び教育支援の一助として、本年度も10月末に検索用（非インストール版）DVDを無償提供しました。毎年JAPIC会員の薬系大学、及び医学系大学4年生向けにDVDご利用の希望数を伺っておりますが、本年度は薬学系大学50機関から10,000枚を超える数の回答が寄せられ10月末に送付いたしました。また全国の医学系大学にも同様の調査を行い70大学から回答をいただき7,400枚のDVDを送付しました。

本事業は3月発行の「日本の医薬品構造式集」の無償提供と合わせ毎年実施しており、本年で8年目となります。「日本の医薬品構造式集」はJAPIC会員の薬系大学の新1年生向けに本年3月には12,000冊を無償提供いたしました。

医療現場において次世代を担う学生への教育支援として公益事業の一環として実施しておりますが、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

JAPICサービスの紹介

附属図書館

■附属図書館は、2012年1月より、4階に移転いたしました。

（一財）日本医薬情報センター附属図書館は医薬品に関する資料を収集し、一般に公開しております。また、著作権法31条の「**図書館資料の複製が認められる施設**」として、昭和48年政令に基づき国の指定を受けております。

開館日／時間	月-金／9：00-17：30 （複写受付 9：30-17：30 ※即日処理は9：30-16：30）
休館日	土・日・祝祭日、年末年始（12月29日-1月4日）
入館・閲覧	一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。 入館手続きを済ませてからお入りください。 貸し出しはいたしません。 パソコン等の機器類の使用はご遠慮いただいております。
レファレンスサービス	所蔵資料について、電話、FAXによるお問い合わせに応じております。
主な蔵書（2012年1月現在）	逐次刊行物（国内雑誌629種、外国雑誌62種）、世界の医薬品集・薬局方、治験薬、名称・同義語集、各国の薬事規制資料、医薬品安全情報、他関連書籍。

■附属図書館ホームページからご利用いただける図書館サービス

⇒（URL：http://www.japic.or.jp/service/library/index.html）

こちらのメニューよりお選びください

■【蔵書検索・新着案内】メニュー

検索・一覧	案内・お知らせ
・図書/雑誌(全資料)横断検索 ・図書/雑誌 詳細検索 ・雑誌タイトル検索 ・雑誌タイトル一覧 ・学会開催情報検索	・お知らせ ・図書新着案内 ・雑誌新着案内 ・ＨＥＬＰ

・**図書／雑誌（全資料）横断検索**
雑誌名、特集記事、書名、著者名、出版社名から横断的に検索できます。

・**図書／雑誌　詳細検索**
条件を絞り込んで検索でき、検索キーワードをAND,OR、NOTを選択して検索できます。

・**雑誌タイトル検索**
雑誌名、ISSNから検索、所蔵確認ができ、出版年で絞り込むこともできます。

・**雑誌タイトル一覧**
図書館所蔵雑誌の一覧。出版社名、ISSN、所蔵している巻・号、発行頻度が参照できます。

・**学会開催情報検索**
日本国内で開催される医学・薬学関係の学会、研究会、国際会議、シンポジウムなどの開催情報を掲載。年間の抄録集・プログラム等収集数は4,000件を超す数となっております。

・**図書新着案内**
月一回程度更新。過去一ヵ月の間に附属図書館で受け入れた図書の案内です。

・**雑誌新着案内**
毎日更新。新着雑誌リストと主な雑誌の目次をPDFで公開しております。また許可を得られた出版社へのホームページにリンクを張っております。

■【世界の医薬品集・価格表】（55カ国160種）

⇒（URL：http://www.japic.or.jp/service/library/cou_document.html）

■【世界の公定書 <薬局方・薬局方外規格等>】（21カ国）

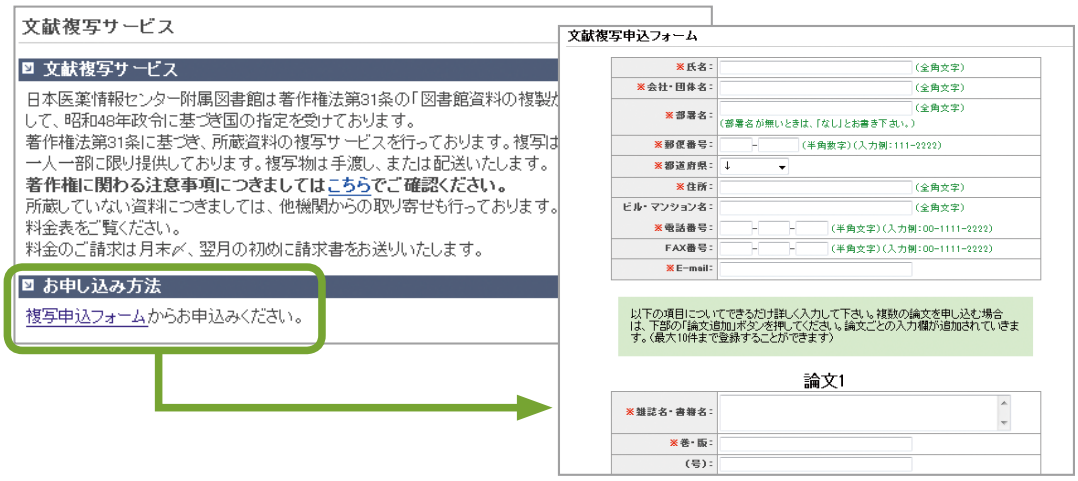
⇒（URL：http://www.japic.or.jp/service/library/cou_official.html）

図書館では、これらを重要な資料と位置づけ収集に努めております。
最新版等、詳しくは【蔵書検索・新着案内】をご覧ください。

■【文献複写サービス】

著作権法第31条に基づき、所蔵資料の複写サービスを行っており、調査・研究用として一人一部に限り提供しております。複写物は手渡し、または配送いたします。所蔵していない資料につきましては、他機関からの取り寄せも行っております。文献複写の申込はホームページの「文献複写フォーム」からご利用ください。

また、JAPIC維持会員の方は、iyakuSearchの検索結果から直接複写の申込をすることもできます。詳しくは図書館のホームページの文献複写サービスでご確認ください。



しごと百景

「脳に良い？」

学校法人北里研究所　北里大学病院　薬剤部
椎 崇（Shii Takashi）

私は、今流行の「脳に良い」と感じたことがありましたので少しお話させて頂きます。それは仕事で「異動」することです。私はしたことはありませんが「転職」することも、おそらく「脳に良い」と思います。また、私は「脳に良い」ためには「プラス思考で」という条件付きであるとも思います。

私が勤務する学校法人北里研究所は、平成20（2008）年4月1日、社団法人北里研究所と学校法人北里学園が統合し、誕生しました。統合により、北里大学病院（以下、本院）、北里大学東病院（以下、東病院）、北里大学北里研究所病院（以下、北研病院）、北里大学北里研究所メディカルセンター病院の4つが関連病院になりました。

本院は、神奈川県北に位置する相模原キャンパス内にあります。特定機能病院として診療科目24科に総病床数1,033床であり、地域医療の中核病院として人々の健康増進に貢献しています。

東病院は、相模原キャンパスから徒歩10分の場所にあります。総病床数557床で在宅介護や訪問医療に対応する体制を整えており、主に慢性期・回復期の患者さんを対象とした医療を提供しています。

北研病院は、東京都港区白金、北里大学薬学部の隣にあります。総病床数294床であり、「心ある医療」（患者様中心の全人的医療）の実践を不変の病院理念として掲げています。

北里大学北里研究所メディカルセンター病院は、埼玉県北本市にあります。総病床数は372床であり、「豊かな緑と絵のある病院」として「新しい病院」を目指しています。地域在住の皆様の健康保持と疾病予防に貢献しています。もちろん関連4病院というだけに4病院間では各職種職員の異動があります。4病院になったばかりで頻繁に異動があったわけではありませんので、それぞれの職員は他病院の情報を詳しく知りません。

私は某薬科大学を卒業後、東病院に就職しました。病院の近くに住んでおりましたので、15分～20分で通勤していました。7時30分から21時過ぎまで勤務したとしても通勤はあまり苦になりませんでした。入職時には東病院の関連病院が本院しかありませんでしたので本院以外への異動はないだろうと考えていました。薬剤部内でのローテーションはありましたが東病院に13年間勤務していました。しかし、法人の統合により、関連病院が4つできたことで入職時になかった4病院間での異動の可能性がでてきたのです。

そして、いよいよ私に異動の指示がきました。しかも近くの本院でなく、白金にある北研病院への異動です。私は北里大学薬学部出身ではないのでどのように行ってよいかもわかりません。通勤時間をインターネットで検索してみると片道1時間半もかかります。もちろん満員電車に揺られてだろうと想像してしまいました。電車が事故で遅れることもあるから早めに出なくては・・・いったい朝何時に起きればよいだろうか。どんな方々がいるのだろうか。いろいろな不安が頭をよぎりました。

1カ月半後・・・

いよいよ異動初日、サラリーマン（自分もサラリーマンだが）と共に満員電車に揺られて、なんとか北研病院にたどり着きました。実際に出勤してみるとなんとも身の置きどころのない立場・・・どこにいればいいのか・・・職場の薬剤師は1名除いて30名以上知らない方ばかり

でした。滅多にない異動で来た職員（私）を見る他の職員の目が気になりました。あの人もこの人も異動経験あり、他の3病院からの異動者が多くいれば変わってくるのでしょうが、異動の多い製薬会社MRの方々と違い、受け入れる職員も私をどう扱っていいかわからないのではないかと感じました。そして、東病院には13年勤務していたので、勤務体制、業務の流れ、採用薬品、機器の使用方法・整備、資料などのある場所などは把握していました。もちろん、新しい職場ではすべてわかりませんので聞かなくてはなりません。今まではあまり考えなくても出来ていたことでも必死でした。また、もちろん日直、当直をすることになるため、各部署での研修を行いました。困らないためにも研修にもさらに身が入りました。そして、東病院と北研病院の調剤内規やマニュアルはもちろん異なります。隅から隅まで何度も読み、わからないことは確認、確認、また確認です。常に脳を働かせなくてはなりません。しばらくしてスタッフとも話ができるようになると、精神的にも楽になってきました。不思議と（当たり前ですが）毎日の積み重ねで徐々に慣れてきました。

やがて、日直、当直も一人立ちし、北研病院でも一人前になりました。北研病院のスタッフも良い方ばかりで、楽しく仕事をさせて頂いていました。忙しくも楽しい月日は過ぎ・・・異動から3年が経過しました。また私に声がかかりました。今度は、北研病院（白金）から本院（相模原）へ「異動」が指示されました。この時には、不思議と初めての異動の時のような動揺、焦り、不安がありませんでした。その理由は、自宅から近い勤務地に戻るということ、本院のスタッフの半分以上を知っていること、入職時にはないと思っていた初めての異動の衝撃があまりにも大きかったからかもしれません。

そして、またの「異動」で新たな仕事が始まりました。もちろん、新しい職場では様々なことがわかりません。ほとんどのことを聞かなくてはいけません。本院は、東病院、北研病院でのやり方とはまた異なります。脳をフル回転させなくてはなりません。東病院と北研病院と本院の調剤内規、マニュアルはもちろん異なります。隅から隅まで何度も読み、わからないことは確認します。常に脳を働かせなければなりません。また業務に慣れるまで必死です。しかも本院は、診療科数、採用薬品とも関連4病院で最も多いのです。

「異動」から2カ月経った現在、本院での研修が終わりました。私は二度の異動で東病院、北研病院、本院の三病院で勤務した初めての薬剤師となりました。私は多くの薬剤を学ぶ良い経験が出来たと思っています。今までほとんど4病院間の情報交換の場がありませんでした。私の役目は、業務の改善案を出すことはもちろんのこと、各施設のスタッフ同士の交流を深め、情報共有を進めることにもあると考えています。

私は異動していろいろな方々との出逢いがありました。東病院は神奈川県にあるため神奈川県病院薬剤師会、北研病院は東京都にあるため東京都病院薬剤師会の会員になります。それぞれの薬剤師会で委員をやらせて頂き、いろいろな先生方と知り合う機会を頂きました。様々なお話をさせて頂きとても勉強になりました。東京と神奈川なので隣に位置しているため学会、研究会、勉強会などでも情報交換させて頂く機会も多くなりました。また、新しい勤務先では薬剤師だけでなく他職種の病院スタッフ、患者様、MRなど企業の方々と多くの方々に出逢うことができました。とても幸せなことであり、大きな財産だと思っています。

改めて振り返ってみると変化の多い異動とは実に「脳に良い」ものだな、良い刺激になるなあと感じています。異動時には業務に慣れるまで脳が活性化し、業務に慣れてからとは違った脳を働かせなくてはいけません。異動することは大変ではありますがとても良い経験ができたと思っています。また、私は「脳に良い」ためには、何事も強いストレスに感じず、良い経験と考える「プラス思考で」という条件付きであるとも思います。

まだまだ本院では一人前になっていません。これから日直見習い、当直見習いが待っています。それでは、今週日曜日に指導して下さる方々に挨拶に行ってきます・・・。これからもがんばります。

最近の話題

ピンピン・コロリを達成するにも、先ずは。

日本OTC医薬品協会　常勤顧問
西沢 元仁（Nishizawa Motohito）

先般、平成22年度国民医療費の概況が発表された。37兆4202億円で前年に比べ1兆4135億円、3.9%の増加となった。また、国民一人当たり医療費も29万2200円と、3.5%の増加となった。少子高齢化と共に、医療費の自然増という言い方がされ、毎年1兆円規模での増大とされていたが、診療報酬の見直しも相まって、より大きな増大となったように受け取られている。また、その内訳では医科診療医療費が27兆2228億円（72.7%）、歯科診療医療費が2兆6020億円（7.0%）、薬局調剤医療費は6兆1412億円（16.4%）となっている。そのほか、入院時食事・生活医療費、療養費等が合算されている。医科診療医療費の前年比伸び率は3.9%、歯科診療医療費は1.7%、薬局調剤医療費は5.5%となっている。このような数字を基に、薬局調剤への風当たりが一段と強くなっている。

ジェネリックの活用に向けた配慮も、支払いを行う患者にとっては宣伝通りの節減となっていないという受け止めとなったりしている。

日本OTC医薬品協会では、その創設以来、生活者による適正なOTC医薬品使用（セルフメディケーション）の振興に向けた働きかけを行ってきた。そのツールの一つとして、「セルフメディケーション・ハンドブック」と題した小冊子を毎年20万部あまり作成し、毎年改定をしながら、生活者の手元に様々なチャネルから届けることを進めている。更に、もっと詳しい情報を必要とする者に対しては、「OTC医薬品事典」と題する医薬品情報と、関連諸事項を収載した事典を隔年に発刊してきた。

JAPICでは、「医療用医薬品集」を編集刊行されており、とりわけ医療用医薬品をおさめた通称「赤ジャピ」は、医療用医薬品の効能・効果、用法・用量、禁忌・主な副作用、等を速やかに参照する上で、かけがえのない資料として活用されてきた。また、一般用医薬品についても、同様の趣旨で一般用医薬品集、通称「青ジャピ」が発刊され、密かにライバル視したこともあった。無論、収載品目数でみたならば、「青ジャピ」は1万点を超える網羅性を持っており、会員企業からの提供情報に依っているため、凡そ4千品目の収載に過ぎない「OTC医薬品事典」とでは、勝負になるはずがない。では、なぜ、OTC医薬品事典の刊行を続けているのだろうか？海外の同様組織では、英国OTC医薬品協会（PAGB）が、OTC Compendiumと称する医薬品集を整備発行している。こちらも、会員からの情報提供を主体としていることもあり、我が国のものに比べ、極めてハンディなものとなっている。米国では、PDRの姉妹版として、非処方せん医薬品とサプリメントのPDRと称されるものが刊行されているが、近年、えらく薄づくりとなったのは残念である。

ひとえに、我が国に比べ、諸外国ではOTC医薬品として流通する品目が相対的に少なく、消費大国と言われる米国においても、ドラッグストアの店内でOTC医薬品の占める割合は、棚総延長では1割にも満たないものと見込まれる。更に、今日のネットワーク利用の浸透により、かって印刷物として重宝されたものも、ネットを通じたその都度の検索が便宜に行われるようになったことも、印刷物が薄手になった遠因であろう。

さて、そのように情報環境が変わったとしても、医薬品が「モノ+情報」として成り立っていることに変わりはない。むしろ多様化するツールを、生活者を含め、どう使いこなすかが問われている。生活者のほとんどが高等学校卒業者であり、大学卒業者も増えているが、健康リテラシーに偏りがあるのではないかとの懸念や、医療従事者の中で生活者主体の医療という声が上がっても、生活者（患者）自体は従来以上に主体としての取組みではな

く、客体として医師の指示に従う様相が見える。

しかしながら、今日の健康問題が、急性の感染症や事故による負傷で、患者の主体的な関わりが必要とされず、専門家による迅速かつ的確な対処が最も主要であった時代と異なり、生活習慣病と呼称されるように、慢性に推移し、生活者自身の取組みで病状の推移が変わりうるものにあっては、生活者自らが正しい理解を持って、取り組みを主体的に進めるか否かが大きなカギを握ることとなる。

また、生活者が主体的に取り組む時期が、疾病として病像が明らかになる前から開始され、身体の不調が重篤になることなく、終末を迎える事が出来る様であれば、まさにピンピン・コロリの実践といえよう。

また、このような取組みは個々人の健康だけではなく我が国の誇る医療保険制度の「健康度」も改善することとなる。我が国の国民皆保険制度の特徴の一つは、国民すべてが何らかの公的医療保険制度でカバーされ、ほとんどの医療機関がその制度に基づいた医療サービスを公定価格で提供しているところにある。更に、嬰児・小児や高齢者に対しては自己負担の無料ないし軽減措置が自治体レベルでも講じられており、医療機関を頼るこれ等の人々にとっては、負担が極めて軽減されていることもありがたいことだろう。しかしながら、そのような仕組みの反作用として、これら負担軽減が図られている人々における買い廻りならぬショッピング受診といわれるような、安易かつ無意味な受診が見られるとされている。また、日常の健康配慮を行うことなく、深夜や休日に駆け込み受診する人々も増やしているとの声もある。

一方で、給与からの天引きで医療保険料を負担している多くの勤労者は、受診のための休みを取る事すら困難なために医療機関受診もあまりせずに、OTC医薬品の活用などで対処している人が少なくないとされる。

これまでの抽象的な掛け声だけであった健康づくりが、具体的な数値指標をできるだけ採用し、「健康日本21」として実施され、先般「健康日本21（第二次）」として進められることとなった。第二次計画では、従来の医療機関だけではなく「街の健康ステーション」である薬局・ドラッグストアと、そこに従事する薬剤師の活用が取り込まれている。

日本OTC医薬品協会では、昨年発足した日本一般用医薬品連合会に加盟する諸協会と共に、Responsible Self-Medication（自己管理治療）の普及と活用を更に進めるべく、様々な取り組みを進める事としている。そのために、医薬品を供給する側としては、以下のような取り組みを始めている。

(1) OTC医薬品の社会貢献度合いの確認と成果の共有。
(2) セルフメディケーションのツールとなるスイッチOTC医薬品の供給拡大。
(3) 生活者が、自らの健康管理の主人公となるよう、生活者の意識改善に向けた各種の啓発の促進。（学校などでのくすり教育支援を含む。）
(4) これ等の活動の基礎となるOTC医薬品の有効性・安全性・品質をより堅固なものとする取組み。

このような取り組みは、日本だけではなく、欧米においても、またアジア太平洋地域においても、共通して進められている。特に、欧州などの経済危機を背景に、セルフメディケーションは、国民皆保険制度を守る上から活用に向けた取組みが進められようとしている。米国においても、これまでの医療は市場経済としていたものから、オバマ大統領の提唱による国民をカバーする医療保険制度の実施が現実化している。

一方、アジア太平洋地域では、国力の進展に伴って、国民皆保険制度の導入が声高に語られている。我が国の轍を踏むことが無いよう、強く発信をするとともに、これまでの弊を打破する姿を世界の人々に示すこととしていきたいものである。

COLUMN コラム

会員の声

母校と地域の薬剤師に貢献できる教員に…

北海道薬科大学社会薬学系医薬情報解析学分野　講師
梅田 純代（Umeda Sumiyo）

はじめまして、北海道薬科大学社会薬学系医薬情報解析学分野講師の梅田純代と申します。

講義・実習など教育以外に図書館・医薬情報センター主任を兼務し、両場面でJAPICのツールを利用させていただいています。

私の母校であり職場である北海道薬科大学は、北海道小樽市に昭和49年開学した単科大学です。現在、薬学科（6年制）の学生1300名と大学院生が在籍しています。教育理念「ファーマシューティカル・ケアの実践を通じて、地域社会ならびに国民の健康と福祉の向上に寄与する薬剤師の養成を図る。」のとおり、薬剤師教育に力を注いでいます。

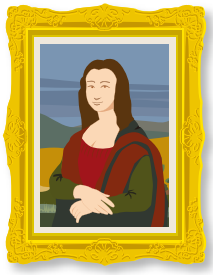
本学図書館は平成19年、地域の医療を担う医療人に貢献するために図書館・医薬情報センターに生まれ変わり、医薬情報室が設置されました。医薬情報室では、学生だけでなく地域の薬剤師に貢献できるよう、主にホームページを通じて情報発信しています。お薦めウェブサイト集（日本版・海外版）は、利用者の責任において自由に利用できます。また大学内専用のサイトでは情報検索の基礎とコツを公開しているので、学生は一度医薬品情報の実習で習ったデータベースについて自分で再度取り組めます。このほか同センターでは学内の教員・学生、学外の薬剤師の先生方から問い合わせを受付けています。問い合わせ内容はデータベースの使い方から院内製剤の調製法、薬物治療と多岐に渡ります。質問の内容によっては、JAPIC iyakuSearchを活用します。かつて実習で教えた学生から卒業後に問い合わせがあると、母校を慕ってくれる嬉しさと同時に地域の薬剤師の先生方をサポートしていこうと改めて気持ちが引き締まります。またホームページにある医薬情報室で受けた質問回答集を見た北海道外の薬剤師から質問を受けることもあり、ホームページを管理する責任を感じます。

もう1つの私の顔は教員です。私の主要な担当科目に医薬情報学（4年次後期）と実習Ⅶ（4年次後期）があります。学生は情報源について座学の授業で学び、同時期にある実習でコンピュータを使って技術習得ができるようにしています。3日間ある実習の初日は、学生各自が病院薬剤師になった設定で、JAPIC医療用医薬品集CD-ROM版を用いて実薬の錠剤鑑別、同種薬や同効薬を検索します。その後、医薬品添付文書やインタビューフォームから必要な情報を入手し、続いてアメリカでの同種薬と同効薬を医療用医薬品のウェブサイトで調べ、PubMedで課題として与えられた医薬品に関する薬物相互作用について検索します。実習2日目は本学図書館が契約しているデータベースの使用法と著作権について説明してから演習を行います。3日目は2日間の実習のまとめとして、学生は各自課題の成分について日本とアメリカの医療用医薬品（各1製品）を取り上げ比較し、発表します。この時もJAPIC CD-ROMは活躍します。私は学生が情報検索に興味を持ち、実習で学んだことを5年次授業や卒業研究、卒業後の薬剤師業務で的確な情報検索ができるよう、心がけています。学生が5、6年次の卒業研究において私のもとへデータベースや情報収集について尋ねてきた時は、データベースの最新情報もあわせて説明しています。

日常の大半は大学と家の往復ですが、アロマセラピーやハーブに親しみ、週末のカフェ巡りで息抜きをしています。もともと私は植物のもつ生命力に興味があり、植物から医薬品を創りたいと思い、薬学部に進学しました。大学院では漢方薬理学の研究をし、その後イギリスにある補完医療専門学校のアロマセラピーコースに1年間留学しました。セラピスト候補生としての実習で、クライアントを迎え入れて問診し、精油を選んで施術してアフターケアを説明する過程が、薬剤師と患者とのあり方と重なり、帰国後に薬剤師として仕事をするきっかけとなりました。

現在、北海道にある母校に戻って教員を務めて6年目になります。北海道には富良野のラベンダーや北見のハッカなど精油の産地があり、嬉しいです。東京出身ですが、いまでは北海道在住歴は人生の半分ほどになりました。大学入学時には自分が教員になるとは思ってもみませんでしたが、これからも母校、学生、卒業生をはじめとする薬剤師の先生方に貢献したいと思います。

くすりの散歩道 NO.62



「モナ・リザ」の微笑？

(一財) 日本医薬情報センター　添付文書情報担当
本間 とも美 (Honma Tomomi)

先月末、初秋のパリを旅行した。ご存知のように、パリにはエッフェル塔に凱旋門、オペラ座などなど沢山の観光名所があるが、セーヌ川に浮かぶ小さなシテ島がパリ発祥の地と言われている。そのシテ島にはゴシック建築で有名なノートルダム大聖堂が建っている。この大聖堂の前には八角形のマークがあって、フランス国内の距離を示す起点ともなっている。つまり、日本の日本橋と同じ役割を持つことでも知られている。

さて、このフランスのゼロ地点から西へとセーヌ川沿いを進んで行くと、これまたパリ観光には欠かすことができない「ルーヴル美術館」に辿り着く。

ルーヴル美術館には有名な絵画や彫刻等が数多く陳列されている。美術にはあまり造詣のない私でも知っている作品が山ほど並んでおり、到底見切れるものではない。ガイドブックを片手に、ミロのヴィーナスやドラクロワの名画など有名な作品を探して美術館中を数時間歩き回った。

中でも、誰もが知るレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」は一番の人だかりで、人混みを掻き分け近づいた先には厚いガラスケースに守られたモナ・リザが微笑んでいた。ガラスの向こうで微笑むモナ・リザを見て、ふいに思い出した小説がある。

モナ・リザの微笑を学術的に「アルケイックスマイル」と呼んでよいのかどうか私には分からないのだが、この言葉と同時に松本清張の中編小説「微笑の儀式」を思い出した。

アルケイックスマイル (archaic smile) とは広辞苑によると、「古拙 (こせつ；古風で技巧はつたないが、趣のあること) の微笑。ギリシア初期の人物彫刻の口辺に見られる微笑を指す。中国の六朝時代や日本の飛鳥時代の仏像にもいう」とある。仰月型の口元の微笑みのことである。

「微笑の儀式」をこれから読もうと思っている方にはネタばれになってしまうのだが、簡単に内容を紹介する。

飛鳥仏のアルケイックスマイルに魅せられている彫刻家の作品が変死した女性の死に顔に似ていることから、主人公の法医学者が事件を紐解いていく推理小説である。

この彫刻作品はアルケイックスマイルを見事に表現しているのだが、「人間の実物大」で「本当の人間の顔からそっくり取った」ものではないかとの疑惑、また、女性の死因は警察によると大量のドライアイスで発生した炭酸ガスによる窒息死であるが、死に顔はアルケイックスマイルの如く、微笑みを浮かべていて、真っ先に現場に入った人の証言は甘い臭いがした、とのこと。事故死か、自殺か、他殺か…。炭酸ガスによる窒息で微笑みを浮かべるものなのか、また甘い臭いは何か?と推理が進んで行く。

事件の詳細等については触れずにおくとして、微笑の真相だけ書かせていただく。微笑からすぐに推理された方もおられると思うが、「亜酸化窒素」によるものであった。

この小説を読んだとき、麻酔薬である亜酸化窒素は吸入すると笑ったように見えることから、別名「笑気」と呼ばれていることを思い出し、成る程と思った記憶がある。

ルーヴルのモナ・リザの目の前で、つい、笑気まで連想してしまったのであるが、帰国後、小説を読み返したところ、「ダ・ヴィンチのモナリザのような、あんな人間臭い、勿体ぶってとり澄ましたような微笑ではありません」との台詞があったこと、また、現局方の「亜酸化窒素」の性状は「無色のガスで、においはない」とあることを最後に書き添えて終わろうと思う。

※松本清張『微笑の儀式』黒の様式 (新潮文庫)

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より －（抜粋）

2012 年 9 月 3 日～9 月 28 日分のJAPIC WEEKLY NEWS（No.368-371）の記事から抜粋

■米FDA

- 筋肉痛および関節痛に対するOTCの局所鎮痛剤（menthol,methyl salicylate,capsaicin）：Drug Safety Communication；まれに重篤な熱傷を引き起こすことについて
  ＜*http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm319353.htm*＞
- Update：ロタウイルスワクチンRotarixの情報；腸重積症に関する表示改訂について
  ＜*http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/Vaccines/ApprovedProducts/ucm226690.htm*＞
- Drug Safety Communication：Mirapex（pramipexole）による心不全リスクの可能性に関する安全性レビューの実施
  ＜*http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm320054.htm*＞
- Q&A：米FDA、mycophenolate含有医薬品のリスク評価・リスク緩和戦略（REMS）を承認；妊娠中の使用による流産や先天性奇形リスク増加について
  ＜*http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/PostmarketDrugSafetyInformationforPatientsandProviders/ucm318880.htm*＞
- Stryker、米国、カナダ、日本、その他地域におけるNeptune Rover Waste Management SystemのClass 1回収を発表：組織の損傷による重篤な傷害の報告2件（死亡1件を含む）を受けて
  ＜*http://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm320958.htm*＞

■独BfArM

- Zostex（brivudine）のRote-Hand-Brief：5-fluoropyrimidineとの致死的な相互作用の可能性について
  ＜*http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2012/rhb-zostex.html*＞
- Tavanic（levofloxacin）およびジェネリック薬のRote-Hand-Brief：適応の制限、新たな重篤な副作用（低血糖性昏睡、トルサード・ド・ポアント、急性肝不全による死亡、良性頭蓋内圧亢進症、一時的な失明、膵炎、重症筋無力症の症状悪化、靱帯および筋断裂、難聴など）と使用上の注意について
  ＜*http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2012/rhb-tavanic.html*＞
- Duogynon（progesterone, estradiol benzoate）：レトロスペクティブなケースシリーズ分析により先天異常との因果関係は示されないが、完全に排除することもできないことについて
  ＜*http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2012/RI-duogynon.html*＞
- statins：糖尿病リスクの上昇；クラスエフェクトの可能性について（最新情報）
  ＜*http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/stufenplanverf/Liste/stp-statine-diabetes.html*＞

■仏ANSM

- パンデミックインフルエンザA（H1N1）ワクチンとナルコレプシー：欧州の研究およびフランスのケースコントロール研究からの結果に関する情報
  ＜*http://ansm.sante.fr/content/download/43563/566139/version/2/file/pi-120920-narcolepsie.pdf*＞
- Methylphenidate：処方および調剤の条件、サーベイランスに関する注意喚起（神経精神病学的、脳血管系、心血管系リスク、成長への悪影響、乱用・誤用の恐れなど）；医療専門家向けレター
  ＜*http://ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Methylphenidate-Rappel-des-conditions-de-prescription-de-delivrance-et-de-surveillance-Lettre-aux-professionnels-de-sante*＞

JAPIC事業部門 医薬文献情報（海外）担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail（有料）もしくはJAPIC WEEKLY NEWS（無料）のサービスをご利用ください（JAPICホームページのサービス紹介：〈http://www.japic.or.jp/service/〉参照）。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当（TEL 0120-181-276）までご連絡ください。

Library

図書館だより No.269

【新着資料案内　平成24年8月29日～平成24年9月26日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索（http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm）の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館（TEL 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順、五十音順 〉

書　名	著編者	出版者	出版年月
INTERNATIONAL STANDARD 国際規格 英和対訳版 社会セキュリティー事業継続マネジメントシステム-要求事項		日本規格協会	2012年6月
JAPIC「一般用医薬品集」2013	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2012年9月
MIMS Annual Indonesia 22nd Edition 2012	Leong Wai Fun Ed.	UBM Medica Asia Pte Ltd	2012年
一般名でさがす ジェネリック医薬品便覧 平成24年8月版		じほう	2012年8月
科学・分析機器総覧 2012	日本科学機器協会 編	日本科学機器協会	2012年9月
図解PubMedの使い方～インターネットで医学文献を探す～第5版	岩下愛、山下ユミ	日本医学図書館協会	2012年3月
先発・代表薬でさがすジェネリック医薬品リスト平成24年8月版	医薬情報研究所 編	じほう	2012年8月
軟部腫瘍診療ガイドライン2012	日本整形外科学会診療ガイドライン委員会軟部腫瘍診療ガイドライン策定委員会 編	南江堂	2012年3月
輸液・静脈栄養の管理の実際とコツ カテーテル・ポート・輸液組成から感染症対策まで	井上善文	フジメディカル出版	2012年9月

情報提供一覧

【平成24年10月1日～10月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当（TEL 03-5466-1812）までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等
〈出版物・CD-ROM等〉	
1.「JAPIC Pharma Report－海外医薬情報」	10月5日
2.「添付文書入手一覧」2012年9月分（HP定期更新情報掲載）	10月1日
3.「JAPIC NEWS」No.343　11月号	10月26日
<医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等>　（FAX、郵送、電子メール等で提供）	
1.「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」No.851－854 （旧：医薬関連情報速報FAXサービス）	毎　週
2.「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Qサービス）」	毎　週
3.「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日
4.「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.2770－2791	毎　日
5.「JAPIC Weekly News」No.371－374	毎週木曜日
6.「Regulations View Web版」No.248－249	10月12日·26日
7.「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.461－465	毎週月曜日
8.「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日
9.「JAPIC医療用医薬品集2013」更新情報2012年10月版	10月31日

JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈iyakuSearch〉Free　http://database.japic.or.jp/	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	毎　週
4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. 臨床試験情報	随　時
6. 日本の新薬	随　時
7. 学会開催情報	月 2 回
8. 医薬品類似名称検索	随　時
9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
〈iyakuSearchPlus〉　http://database.japic.or.jp/nw/index	
1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
2. 学会演題情報プラス	月 1 回
3. JAPIC Daily Mail DB	毎　日
4. Regulations View DB　（要:ID／PW）	月 2 回
外部機関から提供しているJAPICデータベース	
〈JIP e-infoStreamから提供〉　https://e-infostream.com/	
〈JST　JDreamⅡから提供〉　http://pr.jst.go.jp/jdream2/	

JAPIC 医療用医薬品集2013〈検索用DVD付〉

◆2012年6月後発品まで収載
◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
◆検索用DVD(非インストール版)付
(DVD単体8,000円(税込)で別途販売もしております。)
◆便利な「薬剤識別コード一覧」
(冊子。別売2,940円　税込)の無料請求葉書付
◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
◆更新情報メールの無料提供(要登録)

2012年8月発売

B5判　約3,300頁 ／**13,650円**(税込)

■検索用(非インストール版) DVD Windows版 とは

◆収録内容
◎医療用医薬品集　◎一般用医薬品集
◎薬剤識別コード一覧　◎薬価情報
◎後発品の全情報　◎添加物情報
◎医療用医薬品の最新添付文書画像(PDF)の表示機能付(無料・要インターネット接続。PDFは毎週更新)

定価：8,000円 (税込)
※インストール版(CD-ROM)は15,000円(税込)で別途販売しております。

JAPIC 一般用医薬品集2013

◆リスク区分(第1類～第3類医薬品)をわかりやすく表記。
◆最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
◆国内流通医薬品をほぼ網羅する12,000製品を収録。
◆個々の製品について製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法、リスク区分を記載。
◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

2012年9月発売　B5判　約1,600頁 ／**9,450円**(税込)

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行　TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売　TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

はなみずき

あめりかやまぼうし。春先に白い花(がく)をつける。ピンク色も多い。やまぼうしは葉が出てから、その上に花をつけるが、はなみずきは花が先に咲くので花が目立つ。街路樹としても人気があるようだ。写真は11月のはなみずき。来年の蕾もしっかりとできている。　(ks)

JAPICホームページより
http://www.japic.or.jp/

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン
Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。

JAPIC NEWS 11 2012.11 No.343
編集・発行 一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館
TEL 03-5466-1811 FAX 03-5466-1814 e-mail:gyoumu@japic.or.jp URL:http://www.japic.or.jp/

＜禁無断転載＞JAPIC NEWS 2012年11月号2012.10.26発行(No.343)(1984.4.27 No.1発行)